イエスの教え　-1-

史上最も有名な教え　山上の垂訓

メシアであるイエスはどのような教えを話されたのでしょうか。
山上の垂訓として知られる史上有名な講話から教訓を得たいと思います。

この山上の垂訓に関して、インドの大聖人マハトマ・ガンジーは、「イエス・キリストの山上の垂訓を適用すれば、国家間の敵対関係は解消し、平和を造り出せる」　と述べ、山上の垂訓を非常に高く評価しています。

イエスの教えは人間の観点ではなく、神の観点から見るように人を教えました。

たとえば人間の観点から見るならば幸福な一生とは、名声や地位、富を得て安楽に暮らし、長寿を全うすることではないでしょうか。
しかし神の観点から見るならば、人生は一瞬で、はかなく霧のように消えていくものです。

神から見た真の幸福な歩みとはなんでしょうか。

イエスはまず真の幸福について次のように語っています。

真に幸いな人とは？

5:3　「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。
5:4 悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。
5:5 柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。
5:6 義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう。
5:7 あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。
5:8 心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。
5:9 平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。
5:10 義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。
5:11 わたしのために人々があな

史上最も有名な山上の垂訓

たがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。
5:12 喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。

富や長寿といった外見のものではなく、愛、平和、信仰、優れた内面の特質、そのようなものを追い求めるように私たちを促しています。
それらはいつの時代にあっても消えない不滅のものではないでしょうか。
それらを追い求める人は、人からも愛され、神からも愛されるのではないでしょうか。

地の塩

イエスは様々なたとえを通して人々を教えました。

たとえばイエスの弟子たちを「地の塩」にたとえています。
当時の塩は不純物が多く、塩の効き目に差がありました。
それで次のように語られました。

5:13 あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。

イエスはここで何を言おうとしたのでしょうか。
「塩」は殺菌力があり腐敗を防止する力があります。しかしそれを失うなら塩としての価値がありません。
イエスの弟子たちも同様に世に汚されて腐敗を防ぐ力を失うなら、神から見て価値のないものとなってしまうと警告されたのです。

世の光

イエスは弟子たちを「世の光」として描写しています。

5:14 あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。
5:15 また、あかりをつけて、それを枡の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照させるのである。
5:16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

燭台は見えるところに置かれる

弟子たちはどうして世の光と言えるのでしょうか。
光は将来を指し示し、明るい希望をもたらすものです。
同様に弟子たちの教えと行動は、人々の生き方の手本となり、行動の指針を指し示し、将来に明るい希望を与えるものであるべきでした。

律法を成就するために来た

イエスの来た目的はなんでしょうか。
次のように語ります。

> 5:17 わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思ってはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。
> 5:18 よく言っておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。
> 5:19 ですから、これらの最も小さいいましめの一つでも破り、またそうするように人に教えたりする者は、天国で最も小さい者と呼ばれるであろう。しかし、これをおこないまたそう教える者は、天国で大いなる者と呼ばれるであろう。

律法を廃するためではなく、成就するために来た　と語りました。
モーセの律法下にいたユダヤ人は様々な規則により圧迫され、うめいていました。
しかしイエスの教えは躍動的で人々を規則という重荷から解放するものでした。
とはいえそれは自由気ままと言うわけではなく、愛という基準に基づいたキリストの律法の下に人々を導くものでした。
キリストの律法はモーセの律法をさらに進展させたものだったのです。

義において勝ったものとなれ

そのキリストの律法は高い道徳規準に基づいたものです。

> 5:20 わたしは言っておく。あなたがたの義が律法学者やパリサイ人の義にまさっていなければ、決して天国に、はいることはできない。

当時、律法学者やパリサイ人は宗教指導者として著名な存在でした。それを上回る正しさを示すことは容易ではなかったでしょう。
しかしイエスの弟子たちは宗教指導者を上回る道徳規準が求められたのです。

兄弟を愛せよ

その基準の下になったのが愛という、神が私たちにお与えになった素晴らしい特質でした。

> 5:21 昔の人々に『殺すな。殺す者は裁判を受けねばならない』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。
> 5:22 しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。兄弟にむかって愚か者と言う者は、議会に引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。

怒りを避けないなら・・・

5:23 だから、祭壇に供え物をささげようとする場合、兄弟が自分に対して何かうらみをいだいていることを、そこで思い出したなら、
5:24 その供え物を祭壇の前に残しておき、まず行ってその兄弟と和解し、それから帰ってきて、供え物をささげることにしなさい。
5:25 あなたを訴える者と一緒に道を行く時には、その途中で早く仲直りをしなさい。そうしないと、その訴える者はあなたを裁判官にわたし、裁判官は下役にわたし、そして、あなたは獄に入れられるであろう。
5:26 よくあなたに言っておく。最後の一円を支払ってしまうまでは、決してそこから出てくることはできない。

兄弟愛が求められました。愛が満ちあふれる関係を想像してみて下さい。
愛と平和が満ちる時それは私たちを至福へと導くのではないでしょうか。

情欲を制御せよ

平和を脅かすものがありました。それは情欲です。欲望が支配する時平和は破られます。
イエスは心から清める必要があることを示し次のように述べました。

5:27 『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。
5:28 しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。
5:29 もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に投げ入れられない方が、あなたにとって益である。
5:30 もしあなたの右の手が罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に落ち込まない方が、あなたにとって益である。

なんと高い基準でしょうか。守ることは本当に難しいかもしれません。
しかし不道徳によって家庭が破壊される例は数知れず起きています。
この諭しを守るように努める時それは保護となることを示しているのではないでしょうか。

結婚と姦淫について

結婚に関しても高い基準が求められました。

5:31 また『妻を出す者は離縁状を渡せ』と言われている。
5:32 しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、不品行以外の理由で自分の妻を出す者は、姦淫を行わせるのである。また出された女をめとる者も、姦淫を行うのである。

結婚の誓いは非常に重いものであることを示しています。
性格が合わないからとかいう単純な理由で離婚することがないように戒めるものでした。
　次回は史上最高の教えと言われている点に言及したいと思います。